

東洋・日本美術史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
東洋・日本美術史特論Ⅰ	東洋美術史	2	大島 幸代	前期 月曜3限
東洋・日本美術史特論Ⅱ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	前期 水曜3限
東洋・日本美術史特論Ⅲ	中国絵画史	2	竹浪 遠	前期 集中講義
東洋・日本美術史特論Ⅳ	仏教美術史	2	大島 幸代	後期 月曜3限
東洋・日本美術史特論Ⅴ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	後期 水曜3限
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	日本絵画作品研究	2	杉本 欣久	前期 水曜4限
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	日本絵画作品研究	2	杉本 欣久	後期 水曜4限

科目名：東洋・日本美術史特論 I

曜日・講時：月曜 3 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：大島 幸代

コード：LM11306, **科目ナンバリング：**LIH-ART601J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：東洋美術史

2・授業の目的と概要：東アジアの美術において長らく題材となってきた神仙、聖山、帝王、仏教僧等の図像や作品を、神話伝説や伝記物語等の典拠とあわせて学ぶ。

3. 学習の到達目標：東アジア美術の主要な題材を識別し、歴史の中に位置づける力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 伏羲と女媧

第2回 日月

第3回 西王母

第4回 崑崙山

第5回 蓬萊山

第6回 桃源郷

第7回 始皇帝 1—始皇帝陵

第8回 始皇帝 2—始皇帝暗殺

第9回 張騫

第10回 仏教伝来 1—漢夢求法説話

第11回 仏教伝来 2—中国の初期仏像

第12回 石窟摩崖の仏像

第13回 玄奘三蔵 1—伝記と生涯

第14回 玄奘三蔵 2—渡天の旅

第15回 玄奘三蔵 3—将来品インパクト

5. 成績評価方法：レポート 80%、授業中に行うワークシート 20%

6. 教科書および参考書：適宜必要な資料を配布

7. 授業時間外学習：参考文献の精読 15 回

レポート作成 1 回

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ

曜日・講時：水曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM13305, 科目ナンバリング：LIH-ART602J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本近世美術史

2・授業の目的と概要： 美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相に

3. 学習の到達目標： 歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 唐絵とやまと絵—江戸時代以前ダイジェスト
- 2 回目 狩野派の系譜 1—御用絵師・正信から元信へ
- 3 回目 狩野派の系譜 2—永徳と桃山の大家
- 4 回目 狩野派の系譜 3—探幽と江戸狩野の確立
- 5 回目 8 代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 6 回目 英一蝶と英派の絵画
- 7 回目 京の町絵師 1—俵屋宗達から宮崎友禅へ
- 8 回目 京の町絵師 2—尾形光琳と乾山
- 9 回目 雪舟流の絵画—長谷川派と雲谷派
- 10 回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 11 回目 武士の絵画 1—鑑戒
- 12 回目 武士の絵画 2—暢神
- 13 回目 対外交渉と長崎派
- 14 回目 来舶清人・沈南蘋と南蘋派
- 15 回目 美術史と鑑定

5. 成績評価方法： 授業ごとに 400 字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1 週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

6. 教科書および参考書：【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

杉本欣久『武士の絵画—中国絵画の受容と文人精神の展開—』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 19

7. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ

曜日・講時：集中講義

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：竹浪 遠

コード：LM98814, **科目ナンバリング：**LIH-ART603J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：中国絵画史

2・授業の目的と概要：中国絵画は古代以来の歴史があり、伝統の上に創造が加えられることで豊かな展開を遂げてきた。この講義では、その始まりから伝統中国の最後の王朝となった清までの展開を、現存作品と関連文献によってたどっていく。美術史学の特徴である作品からのアプローチを重視し、各時代の代表作例を軸に論じていくことで、研究の方法を具体的に提示する。さらに作品成立の背景にある思想や文化等についても紹介する。中国絵画は日本絵画へ与えた影響も大きいため、その具体的な様相にも言及する。以上によって、中国絵画史の総合的な理解が得られることを目的

3. 学習の到達目標：中国絵画史に関する基礎的な知識を理解するとともに、研究方法についても習得し、作品の意味や表現について自発的に観察、考察が行えるようになることを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

講義レジュメを配付し、主な画家や代表的な作品、時代背景などを解説する。関連作品はプロジェクターや複製によって提示する。

- 1 中国絵画のルーツ 1：新石器時代～殷・周（玉器、青銅器、金文）
- 2 中国絵画のルーツ 2：春秋戦国（工芸意匠）
- 3 古代帝国の造形 1：秦（始皇帝陵）
- 4 古代帝国の造形 2：漢（仙界を巡る画像）
- 5 人物画の発達と画の六法：魏晋南北朝（顧愷之、陸探微）
- 6 道釈人物画の隆盛：隋～唐 1（閻立本、吳道玄）
- 7 盛唐における山水の変と中唐の水墨画：唐 2（海図と樹石画）
- 8 華北・江南山水画の成立：五代（荆浩、関仝、董源、巨然）
- 9 山水画の黄金期：北宋 1（李成、范寛、郭熙）
- 10 文人画の確立：北宋 2（文同、蘇軾、李公麟、米芾）
- 11 徽宗とその画院：北宋 3（王希孟、張昞端）
- 12 院体画と僧侶の墨戯：南宋（李唐、馬遠、夏珪、牧谿、玉潤）
- 13 文人画の発展：元（趙孟頫と元末四大家）
- 14 浙派から呉派へ：明（戴進、李在、呂紀、沈周、文徵明）
- 15 南宗画の時代：明末～清（董其昌と清初の正統派、江南諸都市の画派）

5. 成績評価方法：レポート：7割

授業参加状況と小課題：3割

6. 教科書および参考書：『世界美術大全集 東洋編』（小学館）（全17巻、1997～2001年）。

小川裕充『臥遊』（中央公論美術出版、2008年）。

曾布川寛監修『中国書画探訪—関西の収蔵家とその名品—』（二玄社、2011年）。

宇佐美文理『中国絵画入門』（岩波書店、2014年）。

竹浪遠『唐宋山水画研究』（中央公論美術出版、2015年）。

竹浪遠編『松竹梅の美術史』（中央公論美術出版、2023年）。

竹浪遠・山本堯編『龍の美術史』（中央公論美術出版、2026年）。

7. 授業時間外学習：日ごろから博物館・美術館・社寺などに出かけ、美術作品を実際に見てもらいたい。また、『論語』、『莊子』、『史記』、『唐宋八家文』など中国の代表的な古典に親しんでほしい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅳ

曜日・講時：月曜 3 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：大島 幸代

コード：LM21304, **科目ナンバリング：**LIH-ART604J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：仏教美術史

2・授業の目的と概要：日本・朝鮮半島・中国を横断する視点から、テーマ別に仏教彫刻・絵画を取りあげ、主題・図像・材質・技法等において各地域で共有されるもの、変容したものを考察する力を養う。

3. 学習の到達目標：東アジアという広い視野で仏教美術を捉える力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 色と色材 1
- 第2回 色と色材 2
- 第3回 紙と絹の話
- 第4回 木の話
- 第5回 阿弥陀如来と浄土の美術 1
- 第6回 阿弥陀如来と浄土の美術 2
- 第7回 来迎美術 1
- 第8回 来迎美術 2
- 第9回 十王信仰の美術 1
- 第10回 十王信仰の美術 2
- 第11回 変相 1
- 第12回 変相 2
- 第13回 変相 3
- 第14回 伝記絵 1
- 第15回 伝記絵 2

5. 成績評価方法：レポート 80%、授業中に行うワークシート 20%

6. 教科書および参考書：適宜必要な資料を配布

7. 授業時間外学習：参考文献の精読 15 回

レポート作成 1 回

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論V

曜日・講時：水曜3限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23306, 科目ナンバリング：LIH-ART605J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本近世美術史

2・授業の目的と概要： 美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観して

3. 学習の到達目標： 歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 2 回目 刀装具と鐔の意匠性
- 3 回目 江戸と浮世絵 1 一師宣・祐信・春信一
- 4 回目 江戸と浮世絵 2 一蔦屋重三郎と写楽・歌麿一
- 5 回目 江戸と浮世絵 3 一北斎・広重一
- 6 回目 京都と円山派 1 一円山応挙一
- 7 回目 京都と円山派 2 一応挙の門人たち一
- 8 回目 京都と四条派 一蕪村、呉春とその門人一
- 9 回目 天下の台所・大坂の絵画
- 10 回目 近江商人の絵画と北関東への伝播
- 11 回目 江戸の絵画 1 一18 世紀の絵画状況(谷文晁の登場前夜)
- 12 回目 江戸の絵画 2 一谷文晁の登場と洋風画の隆盛
- 13 回目 伊藤若冲 一その真実を探る
- 14 回目 東北の絵画一美術史の問題と研究の可能性

5. 成績評価方法： 授業ごとに 400 字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1 週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

6. 教科書および参考書：【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

杉本欣久『武士の絵画―中国絵画の受容と文人精神の展開―』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 19

7. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史研究演習 I

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM13410, 科目ナンバリング：LIH-ART606J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本絵画作品研究

2・授業の目的と概要： 「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現し、さらに美術館や博物館における絵画分野の担当学芸員として必要なスキルを獲得するため、毎回、実物絵画資料を掲示し、そこから情報を読み取る訓練を行う。

3. 学習の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。

本講は作品を置き去りにしないため、対象に即して読み取るべき情報やその優先順位を見極める能力の向上を目指す。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

実際の絵画資料を掲示し、受講生が協力しながら作品の調査を行う。必要な情報を整理しつつ、その内容をまとめてプロジェクトおよびレジュメを作成し、翌週に口頭発表を行う。

1 回目 ガイダンス

2 回目以降 どのような作品を対象とするかはその都度、相談しながら設定することとする。

5. 成績評価方法： 十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

6. 教科書および参考書：【参考書】

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

7. 授業時間外学習： 日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

○

9. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23409, 科目ナンバリング：LIH-ART607J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本絵画作品研究

2・授業の目的と概要： 「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現し、さらに美術館や博物館における絵画分野の担当学芸員として必要なスキルを獲得するため、授業は以下の内容で進める。

- 1、実際の作品を用いた調査を行う。
- 2、展覧会の解説に必要な情報とは何

3. 学習の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。

本講は作品を置き去りにしないため、対象に即して読み取るべき情報やその優先順位を見極める能力の向上を目指す。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

- 1、実際の作品を用いた調査を行う。
- 2、展覧会の解説に必要な情報とは何かを学ぶ。
- 3、図書館の多目的室を使用し、江戸時代の絵画 50 点前後を陳列する展覧会を行う。

5. 成績評価方法： 十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

6. 教科書および参考書：【参考書】

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

7. 授業時間外学習： 日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよい。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

○

9. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。